

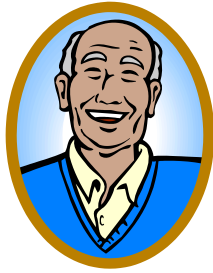
敬老会

3月19日(日)

午後12時半より

喜寿、米寿、白寿を迎えられる方々に、長年にわたってお寺のために貢献していただいた感謝の気持ちを込めて、表彰状を送らせていただきます。

該当されます方は、3月5日までにお寺までご連絡下さい。なお数え満年齢のどちらでも結構です



涅槃会

(お釈迦様が入滅された日)

2月19日(日)

午前11時より

(日英合同)

※法要後にランチがございます



毎月2回はお寺で HAVE A FUN !

10時半からのキッズサービスに引き続き

楽しいクラスやアクティビティを通して

アミダさまのお心を学びましょう

☆クラス予定表☆

2月5日(日曜日) 10:30～

2月19日(日曜日) 10:30～

3月5日(日曜日) 10:30～

お子さんがいらっしゃるの方はぜひご参加下さい



にさめ、むさぼり・いかり・おろかさという三つの毒も少しづつ好まぬようになり、阿弥陀仏の薬をつねに好む身になっておられるのです」とお示しになられています。たいへん重いご教示です。

今日、世界にはテロや武力紛争、経済格差、地球温暖化、核物質の拡散、差別を含む人権の抑圧など、世界規模での人類の生存に関わる困難な問題が山積みしていますが、これらの原因の根本は、ありのままの真実に背いて生きる私たちの無明煩惱にあります。もちろん、私たちはこの命を終える瞬間まで、我欲に執られた煩惱具足の愚かな存在であり、仏さまのような執われのない完全に清らかな行いはいできません。しかし、それでも仏法を依りどころとして生きていくことで、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏さまのお心になう生き方を目指し、精一杯努力させていただく人間となるのです。

国の内外、あらゆる人びとに阿弥陀如来の智慧と慈悲を正しく、分かりやすく伝え、そのお心になうよう私たち一人ひとりが行動することにより、自他ともに心豊かに生きていくことのできる社会の実現に勤めたいと思います。世界の幸せのため、実践運動の推進を通し、ともに確かな歩を進めてまいりましょう。

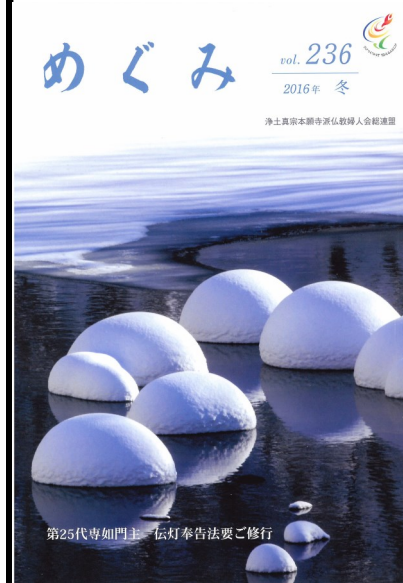
二〇一六年十月一日

浄土真宗本願寺派門主

大谷光淳

『めぐみ 第236号(冬)』

仏教婦人会総連盟事務局より



第25代専如門主 伝灯奉告法要

修行期日 (全10期80日80座)

修行場 (西本願寺)

©2017 (平成29) 年

第5期 3月7日(火)～3月14日(火)まで

第6期 3月28日(火)～4月4日(火)まで

第7期 4月11日(火)～4月18日(火)まで

第8期 4月25日(火)～5月2日(火)まで

第9期 5月9日(火)～5月16日(火)まで

第10期 5月24日(水)～5月31日(水)まで

法要は1日1座(午後)とし、本山において修行

ただし、2017年4月18日のみ、大谷本廟において修行



2016/10/1 [SAT] - 2017/5/31 [WED]



伝灯奉告法要とは、

宗祖・親鸞聖人があきらかにされた「浄土真宗のみ教え」(法灯^{※1})が、聖人から数えて第25代となる専如ご門主に伝えられたことを、仏祖の御前に告げられるとともに、お念仏のみ教えが広く伝わることを願い、伝灯^{※2}奉告法要が平成28年秋から29年春にかけて1日1座、80日間勤められます。

※1法灯：「念仏の法」と示される、親鸞聖人がひらかれた本願名号の真実の教え、浄土真宗のみ教えのこと。

※2伝灯：宗祖・親鸞聖人が明らかにされた真実の教え「浄土真宗のみ教え」(法灯)を伝承し、受け継ぐこと。

念仏者の生き方

仏教が今から約二五〇〇年前、釈尊しやくそんがさとりを開いて仏陀ぶつだとなられたことに始まります。わが国では、仏教はもともと仏法ぶつぽうと呼ばれていました。ここでいう法とは、この世界と私たち人間のありのままの真実ということであり、これは時間と場所を超えた普遍的な真実です。そして、この真実を見抜き、目覚めた人を仏陀といい、私たちに苦悩を超えて生きていく道を教えてくれるのが仏教です。

仏教では、この世界と私たちのありのままの姿を「諸行無常」としよぎようむじよう「縁起」とえんぎ言う言葉で表します。「諸行無常」とは、この世界のすべての物事は一瞬もとどまることなく移り変わっているということであり、「縁起」とは、その一瞬ごとにすべての物事は、原因と条件が互いに関わりあつて存在しているという真実です。したがって、そのような世界のあり方の中には、固定した変化のしない私というものは存在しません。

しかし、私たちはこのありのままの真実に気づかず、自分というものを固定した実体と考え、欲望の赴くままに自分にとつて損か得か、好きか嫌いかなど、常に自己中心の心で物事を捉えています。その結果、自分の思い通りにならないことで悩み苦しんだり、争いを起こしたりして、苦悩の人生から一歩たりとも自由になれないのです。このように真実に背いた自己中心性を仏教では無明煩悩むみょうぼんのうといひ、この煩悩が私たちを迷いの世界に繋ぎとめる原因となるのです。なかでも代表的な煩悩は、むさぼり・いかり・おろかさの三つで、これを三毒さんどくの煩悩といひます。

親鸞聖人しんらんしょうにんも煩悩を克服し、さとりを得るために比叡山ひえいざんで二十年にわたりご修行に励まれました。しかし、どれほどの修行に励もうとも、自らの力では断ち切れない煩悩の深さを自覚され、ついに比叡山を下り、法然聖人ほうねんのお導きによつてあみだにやらい阿弥陀如来の救いのはたらきに出遇われました。阿弥陀如来とは、悩み苦しむすべてのものをそのまま救い、さとりの世界へ導こうと願われ、その願い通りにはたらき続けてくださっている仏さまです。この願いを、本願ほんがんといひます。我執がしゆく、我欲がよくの世界に迷い込み、そこから抜け出せない私を、そのままの姿で救うとはたらき続けていくくださる阿弥陀如来のご本願ほど、有り難い慈悲じひはありません。しかし、今ここでの救いの中にありながらも、その慈悲ひとすじに任せできない、よろこべない私の愚かさ、煩悩の深さに悲嘆ひたんせざるをえません。

私たちは阿弥陀如来のご本願を聞かせていただくことで、自分本位にしか生きられない無明の存在であると気づかされ、できる限り身を慎みつつし、言葉を慎んで、少しでも煩悩を克服する生き方へとつくり変えられていくのです。それは例えば、自分自身のあり方としては、欲を少なくして足ることを知る「小欲知足しょうよくちそく」であり、他人に対しては、穏やかな顔と優しい言葉で接する「和顔愛語わげんあいご」という生き方です。たとえそれらが仏さまの真似事といわれようとも、ありのままの真実に教え導かれて、そのように志して生きる人間に育てられるのです。このことを親鸞聖人は門弟に宛てたお手紙で、「（あなた方は）今、すべての人びとを救おうという阿弥陀如来のご本願のお心をお聞きし、愚かなる無明の酔いも次第

一つ目に紹介した詩『妻』は、妻が自分自身の欠点を静かに受容し、それを「すみません」という言葉にした流れがあります。そして、その流れの以前には、二つ目に紹介した詩…『自分の欠点』を自然に見つめていたことがあったのではないかと思います。また、ここで忘れてはならないのが、著者（東井さん自身の立場から）の目線で詩が書かれていることです。

詩…『妻』の最後に、「妻に『すまん』といわれるまで、『すまんのはこっちだ』ということにさえ気づかないでいた。こっちこそ ほんとうに すまん」という互いを想い合う、あたたかな言葉でこの詩は締めくくられていることです。

これらの詩を通して考えさせられるのは、人は自分の「できない」または「できなかった」という力の無さを初めて眼前にしたとき、他からの支えや力を静かに受け入れることができるのかもしれないということです。そして、東井夫妻のように互いが互いを想い合える言葉の一つが、たとえマイナスの印象のある言葉、「すみません」でも「ごめんなさい」でもいいのではないかということです。

駐在僧侶 大内祐真

日本語法座のご案内(毎週月曜10時より)

『浄土真宗って？仏教って？そもそも宗教ってなんだろう？』

そういった疑問を駆け出しの坊主と一緒に考えながら

噛み砕いた言葉でお話しをしています。

親鸞聖人がお書きになった正信偈と一緒に称え、

浄土真宗のみ教えに耳を傾けてみませんか？

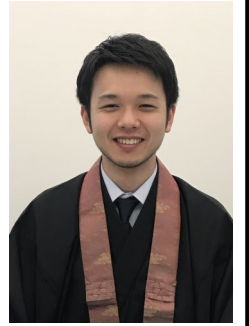
毎週月曜日10時より勤行の後、日本語の法話をしています。



2月の日程表：

- | | | | |
|-----|---------|----|----------------------------|
| 6日 | 正信偈(行譜) | 和讃 | むげこうぶつ
「無碍光仏のひかりには～」 |
| 13日 | 正信偈(草譜) | 和讃 | しよぜんまんぎょう
「諸善万行ことごとく～」 |
| 20日 | 正信偈(草譜) | 和讃 | ぜんちしき
「善知識にあふことも～」 |
| 27日 | 正信偈(草譜) | 和讃 | あじゃせおう しんぬ
「阿闍世王は瞋怒して～」 |

問い合わせは、大内祐真(僧侶)まで rev.ouchi@tbc.on.ca



『すみません』という言葉

題名…妻

「何もしることができなくて、

すみません」ポツリとそんなことをいう妻。

「何にもしてあげることができなくて、すまん」のは こっちだ。

なにもかも 着るものから 食べるものから パンツの洗濯までし
てもらって。

しかも、妻に「すまん」といわれるまで

「すまんのほこっちだ」ということにさえ気づかないでいた。

こっちこそ ほんとうに すまん (「東井義雄一日一言」より)

私自身は未婚者であり、この詩のタイトルで書かれている

「妻」というものはイメージし難いです。しかし、この詩にこころを魅かれました。

一般的に「ごめんなさい」や「すみません」という言葉は、何か失敗をしたときや他人へ悪いことをしたときに出てくる言葉です。それは、一見マイナスイメージな言葉である印象を与えがちです。しかし本当にそうでしょうか。私たちは自分のなかで自分の非を認めることはあっても、それを他人に示すことはなかなか出来ないように思えます。自尊心ないしは驕心の塊が常にこころの中に張り巡らされ、「すみません」というたった5文字が、されど5文字の言葉にしています。

東井さんの妻の人物像とは、「なにもできない妻」です。しかし、その「なにもできない」とは、妻が他人から指摘を受けて自

覚したものではなく、妻自身が自省することによって出てきたものです。そして夫である東井さんは、その妻の声を聞いて『何もしてやれなかったのは自分の方だ』と感じ、「こっちこそほんとうにすまん」と最後に綴られています。

私たちの周囲では、普段から自分に足りないところ、つまり自分の欠点などを見ずに(いや、見えたとしてもそれを隠しながら)、他人の欠点を探している日々を過ごしている人も少なからずいます。私自身もその例外ではなく、自分の欠点を隠して、他人の悪いところばかりを見つけようとする一人になってしまふときがあります。例えば、少しでも嫌なことがあると、それは「あの人が…」とか「周りの環境が…」など、自分の外に悪い部分を見つけようとする癖のことです。そして、少しでも自分の行為が正しかったという理由を探しています。

私たちは常に他人の欠点を探し、自分の欠点は必死に隠そうとする習慣が無意識の内にあるかもしれません。その『欠点』に関連させて、東井さんの詩をもう一つ紹介させていただきます。

題名…自分の欠点

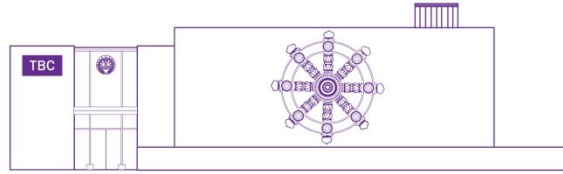
他人の欠点は 誰にでも見える。

しかし自分の欠点が見える人は 少ない。

自分の欠点が見えるだけでなく

それに挑み改めていける人となると

さらに少ない。



会員登録
新規／更新

オンライン登録
新規／更新

会員登録のお願い

2016年が過ぎ、また2017年度会員登録のお願いの季節になりました。昨年も会員登録数が増え、300名を超えました。この順調な増加傾向はトロント仏教会の将来に向けた心強い流れになっています。しかしながらなお、いまだに会員登録をされていない方がおられます。

言うまでもなく、トロント仏教会の将来は会員の皆様に依存しており、ここに今年度の会員登録と会費のお支払いをお願いするものです。

トロント仏教会は常に会員特典の向上をめざしておりますが、ここにいくつかの特典を列記します。

1. トロント仏教会の運営に関する投票権の取得、例えば総代表および各会リーダーの選出、予算の決裁その他トロント仏教会の将来に関する重要な事項等。
2. “Jodo Shinshu values of the Temple” の定期購読
3. 現行会員による無料公証業務
4. CAA Premium-level の割引
5. トロント仏教会特別行事への参加費用の免除あるいは一部減免

一般会員とは各年1月1日から12月31日まで有効で、トロント仏教会の会員として活動するにあたり、年初において速やかな会員登録をお願いします。会員登録と会費（2017年の会費は最低\$100から\$125に上がりました）の受理後（あるいは5月31日までに支払うとの確約後）、会員カードを送付します。

名誉会員とは77歳以上の方で、2017年度会員登録をされた方、あるいはすでに名誉会員であり毎年名誉会員の継続を表明された方、に会員カードを送付します。名誉会員は年会費が免除されますが、ご志納はありがたく拝受させていただきます。

なったモノは、混ぜ合わされ、焼かれ、融解し、叩かれ、回され、溝をつけられています。その目的は、あなたに奉仕し、あなたを笑顔にすることだけなのです。そして、あなたの下で使われている時に、グラスは壊れていました。

一方、グラスは、人間を形作るものが何かを理解していません。私たち人間だけが本当にそれを特別に気にかけています。私たち一人ひとりとはそれぞれ固有の生産プロセスを通して生きてきています。人生の中の今というこの瞬間に至るまでの苦痛、苦しみ、闘争と喜びは、私たちだけが知っています。私たち一人ひとりには唯一無二の彩りの人生があり、それが私たちのカルマ（業）なのです。実際、日曜日の法話ではよくこんなことが話されます。

「人として生まれ落ちることは何と稀有で驚くべきことなのでしょうか。そしてまさに今、私はそれを生きます。」

一体どのような損傷が、人間に思慮のない言葉を話させることができるのでしょうか？何もしてくれなかったと他の人を非難して一体何になるのでしょうか？他の人に公然の場で恥をかかせてどうなるのでしょうか？怒って別の人を叱ることが何になるのでしょうか？不注意な行動でグラスを壊してしまったように、不注意な言葉で「人」を壊してしまう危険性もあるのではないのでしょうか？そして、もし私たちが壊してしまったとしても、その「人」が私たちの前に来るまでに経てきた稀で驚くべき（繊細で複雑な）職人技の多くを壊してしまう前の様に元に戻ってきたのでしょうか？

有害な発言は、意図的なものであったり、単に無謀・不注意の結果であったり、まったく意図しないものであったりするでしょう。しかし本当に動機は重要なのでしょうか？

有害な言葉は一旦発せられると、無かったことには出来ません。人間には弾力性があります。落ちたグラスが床から跳ね返るように、言葉の暴力も跳ね返すことができます。しかし、より繊

細な人は傷ついたり、壊れたりすることがあります。時には、間違った言葉が間違った時に使われると、強い者でさえ苦しむことがあります。私たちは壊れやすい存在ですので、注意して取り扱う必要があります。

人間として、私たちは不完全な存在です。正語から逸脱してしまっている時には、私たちは何をしなければならぬのでしょうか？誠実かつ速やかに謝ることは、壊してしまった部分の修復に必要な第一歩となります。壊してしまった部分を補償してあげることが適切でしょう。そして同じ過ちを繰り返さないように注意しなければなりません。

しかし、もちろん最初から間違いを避けることがいつでも最善の手となります。言葉を発する前に、話そうとする内容に関する三つの基本的な質問をいつでも自らに問いかけることが賢明です。

“Is it true? Is it necessary? Is it Kind?”

「本当か？必要なことか？優しい言葉か？」

あなたの前にいる人は、熱心に働き苦痛に耐えあなたを笑顔にくれるその人は、ワイングラスを修復した時のように、一度傷つけてしまうと、形は戻せたとしても全く同じ輝きは取り戻せないかもしれないことを覚えておいてください。

南無阿弥陀仏

ジョン・スケルトン



ラスは高価なものです。お気に入りのグラスであればなおさらです。直そうと試みるかもしれませんが、どんなにうまくいっても元には戻りません。修理すら出来ないほど壊れてしまっていることもあるでしょう。家宝であったとしても、一瞬の不注意で台無しになってしまいます。

仏陀は物語を伝えるのが好きでした。この記事の物語も不変の真理を写し出しているかもしれません。物は永遠に元の形で存在しえない、という真理を。もしかするとそのグラスは、あなたが手に持っている時よりも前に壊れていたと言えるのかもしれません。グラスは壊れる宿命を持って生み出されます。それがカルマ(業)です。グラスが砂から形成されたのと同じように、また砂に戻ります。キリスト教の神父も言います、「灰は灰へ、埃は埃へ返る」と。

このワイングラスの物語は、執着に関する問題についての示唆を含んでいるかもしれません。グラスを落としてしまうと腹が立ってしまいます。自分自身に怒っているのかもしれないし、私たちの気を散らせた人を叱りつけたり罵ったりするかもしれません。どちらにしてもその感情が明らかにするのは、私たちの物(グラス)に対する執着です。私たちはそれを所有していると考え、愛着を持ちます。それはお気に入りであり、時には家宝だったりするかもしれません。それでも最終的には、どんなものであっても突然別れなくてはならない時が来ることを認識する必要があります。私たちはそのような出来事をも平穏な気持ちで乗り越える必要があります。実際には、私たちは何も所有していないのです。この世の存在は全て、無限の、相互に繋がった、絶え間なく変化する「一なるもの」の一部なのです。

ここで話は変わりますが、もう一つ話を展開させて下さい。

仏陀の「八正道」の第三の原則に「正語」というものがあります。これは五つの戒律のうちの一つでもあり、仏陀がこの問題を非常に特別なものとして重要視していたことが分かります。仏陀は「正語」を次のように定義しました。

「ちつ、正語」とは何でしょうか？嘘を離れ、仲違いさせる言葉を離れ、粗暴な言葉を離れ、無駄話を離れ：これこそが「正語」である。」 (Magg-vibhanga Sutta)

これは、仏陀は正語の鍵となる五つの考えを示されておられます。

「正しい時に、真実に依って、愛情深く、有益な言葉で、真心を持って話される言葉。それが正語である。」 (Vacca Sutta)

また、嘘の害悪についても述べられていて、

「嘘をつく、この一つのことを踏みにじる人は、世界の懸念を超えている。彼がしなないとと言える悪は何もない。」 (Itivuttaka 1.25)

そして、仏陀は私たちが害のない言葉だけを話すようにこう説かれました。

「自分自身を苦しめたり、他人に危害を加えたりしないような言葉だけを話すべきです。私たちはそんな言葉を本当に上手く話せます。」

「喜びの言葉だけを話すべきであり、他人に受け入れられる言葉でなければなりません。他人に悪意を抱かせない唯一の言葉が喜びの言葉なのです。」 (Vangisa)

確かに、「舌は血を出させずに殺す鋭いナイフのようなものだ」という古い諺もあります。クリスタル・ワイングラスの脚を作るために必要なものが何なのかを、使用者である私たちは知りません。ただグラス自体の目が、それを作るために必要なものを知っています。グラスの形になってあなたの眼前に来る前に、グラスの素と

割れ物… 取扱注意



“Is it true? Is it necessary? Is it kind?”

本当ですか？必要なのですか？優しい言葉か？

あなたは何かを片手にしながらこの記事を読んでいるのではないだろうか。ティーカップ又はコーヒーマグ、オシャレなワイングラスなど。好みの飲み物を味わっている時に、手にしている入れ物について思いを馳せたことはありますか？適切な原料をタイミングよく巧みな工程で職人によって作られたその結果として今あなたの手元にそれは有るのです。

私はトロントの私立大学で産業工学を教えています。多くの学生は、私と一緒にいる間、そのカップやグラスが人々の手に渡るまでの生産工程がとても複雑であるにもかかわらず、ほとんど知られておらずあまり評価されていないことを知り、驚いてしまいます。

ワイングラスについて考えてみましょう。どのように作られるのでしょうか？職人は「硅砂」と呼ばれる砂から作業を始めます。酸化ニッケルを加えることでこの硅砂が溶け始めます。酸化鉛を含む様々な化合物をこの砂の混合物に混ぜ合わせていきます。これらの化合物はガラスを柔らかくし光に煌めくようにする働きがあります。

この混合物はペレット状に圧縮され、18時間かけて高温の窯で溶かされます。さらにそこに、滑らかにするために、「カレット」と呼ばれる再利用された破碎ガラスが添加されます。吹き工と呼ばれる職人が、ステンレス鋼で作られた長いチューブの先に溶けた状態の原料の一部をくっ付けます。

職人は根気のいる慎重な繰り返し作業を進めていきます。

回転させ、息を吹き膨らまし、再加熱する。これの繰り返しです。この作業を形が出来てくるまで続けます。その後は、木製やスチール製の種々の工具・型を使用して、ガラスの本体部になるボールの形状を徐々に改良していきます。

そして、「ステマー」と呼ばれるもう一人の職人が、ガラスのボールに別のガラスの塊を貼り付け、型を使わずに脚の部分を形作ります。これらのプロセスには大きな技術と忍耐が必要です。回転させながら適切な道具と技術を駆使して、最終的に、脚の部分は台を取り付けられるほど強く形作られます。

半仕上げの状態のワイングラスは、さらに熱処理のために窯に入れられ、その後冷却されます。そして遂に脚の部分が切られる時が来ます。「カッター」と呼ばれる別の熟練工が脚の柄をデザインし、その柄をガラスにエッチングで描いてゆき、最後に研磨します。クリスタル・ガラスに滑らかなデザインを施すために必要な技術を学ぶために、「カッター」になるには鍛錬と見習いの為の長い時間が必要になります。

これらの長くて複雑な、敬意を表されて然るべき工程を経た結果として、お気に入りのオシャレなワイングラスは出来ています。

今仮に、あなたはこの記事を（これが仏教と何の関係があるのかと疑問に思いながらも）読んでいて、集中力が手から離れてしまっているとしましょう。ふと気が緩んだ瞬間に、あなたの指からガラスが滑り落ち、手から離れていきます。あなたはそれに気づきますが、反応するにはもう手遅れです。ガラスは、ゆつくりと動きながら、あなたの手から落ちていきます。奇跡的に何とか傷がつかずに無事で済んでくれるようあなたは祈っています。そんな時もあるでしょう。しかし、今回は床の上で粉々に砕け散ってしまう様を無力に見守ります。

腹が立ってしまったとしても理解できます。これだけの質のグ

佛心

二〇一七年二月号

浄土真宗 本願寺派

トロント本願寺



トロント仏教会 新総代表からのご挨拶

まず初めに、ロイ草野前総代表の今まで4年間にわたるお寺へのご尽力、ご献身に対し感謝の気持ちを捧げたいと思います。また我々の開教使をはじめ開教使アシスタント、各会のリーダー、役員、取締役会の委員およびアドバイザーの皆様、事務方のパメラとダイアン、多くのボランティアの皆様、および御門徒・お寺・コミュニティをお世話頂いたすべての皆様に、同じ感謝の気持ちをお伝えたいと思います。

新しい総代表として、さらに多くの素晴らしい方々と知り合う機会を楽しみすると同時に、皆様がお寺に来られる動機、また何を成し遂げ、何を求められ、いかにお互いを助け成長し合えるかを考え、お互いを尊敬し、思いやり、尊厳、感謝の気持ち、調和と恩恵をととし、お寺と皆様方それぞれの目標達成に力を合わせたいと考えます。

私たちのお寺は現在、過渡期にあると考えています。私たちの多くの献身的な門徒の皆様はすでに浄土へ往生されました。また今を生きる多くの門徒の皆様も年齢を感じておられます。ただし覚えておいていただきたいことは、私たちには過去に学び、引き継ぎ育ててきた豊かな遺産があることです。私たちのお寺には今でも多くの長老の方がおられ、これら長老方の知恵、ご指導、ご経験は私たちの大切な財産

となっています。また新たに門徒あるいはサポーターになられた方たちの活発な関心、探求心、活力は、これからの未来に続く私たちお寺ファミリーを織りなす大事な要素になります。そしていちばん大事なことは、私たちにはこれからの“法”があることです。

私は個人的に何が私たちのお寺を現在のような特別な場所、かつ心安らぐ場所となったかを見、そして体験してきました。そして今後とも一つのチームとして皆様と一緒に手をたずさえて行きたいと思っています。私はお互いを尊重しつつすべての皆様の価値を具現化できるよう推し進めて行きたいと考え、私たちが自然に持つ感謝の気持ち、私たちがほかの方たちに示せる思いやりの心、そしてさらにその上に“真理の道” (the Path of the Dharma Teachings) を追求し、誇りをもつとともに歩み、これらを世界中の門徒コミュニティと喜びをもつて共有したいと考えます。そして私はこの目標の実現に向け、お寺の総務部門の方たちと共に努力を惜しまない所存です。

私たちのお寺を、引き続きすべての門徒方にとって感謝できる素晴らしい場所にするため、私を総代表として選んでいただいたことに大変感謝いたします。

感謝と共に合掌

ラリー ワキサカ